

# リプロ にゆうす

## Vol. 1

1998年夏号

### 編集・発行

〒980-0021

仙台市青葉区中央4-7-25 ライオンズMS205号

「リプロヘルス・ネットワーク」事務局

TEL.FAX 022-227-0052

### CONTENTS

- 代表あいさつ
- 設立記念シンポジウムレポート
- グループ紹介
- リプロ掲示板

## 女性の健康と性についての正しい知識を身につけるために

リプロヘルス・ネットワーク代表 長池 博子



去る2月21日に  
「女性と健康」と  
題して、お茶の水  
女子大ジェンダー  
研究所教授・原ひ  
ろ子先生の基調講  
演と、記念のシン

ポジウムを開いて『リプロヘルス・ネットワーク』の活動  
を開始致しました。

『リプロヘルス・ネットワーク』については、ご理解頂け  
たでしょうか？

リプロダクティブ・ヘルスというややこしい言葉を省略して、  
更に同じようなテーマを取り上げているグループとネット  
ワークを取りながら、女性が生涯健康でありたい、人権も  
守りたい、地位の向上も図りたいという願いを持つ仲間づ  
くりの活動です。

女性のからだは〔いのちの誕生〕という大切な役目を果  
たせるように、非常に微妙に創られています。男女のから  
だの性差は生まれつきのもので、私も女に生まれなくて生  
まれたわけではありません。また、生後変えられるもので  
もありません。ですから自分の性を受け入れて、女に生ま  
れてよかった、或いは男に生まれてよかった、と思うよう  
に育つことが大切です。先天的な性別に対して後天的な性  
別を社会的にジェンダーと言っています。ジェンダーは民  
族の文化、宗教、慣習、法律、歴史的背景など、いろいろ

の条件によって影響されますが、世界が近くなり交流が激  
しくなり、国連指導による国際会議などが度重ねて開催さ  
れることによって、その差が少なくなっています。リ  
プロヘルス・ネットワークでは女性の健康に関することを  
はじめとして、追々にジェンダーのことも研修したいと思  
っておりまます。

さて、私は女性の健康や性に関する相談所を開設して25  
年経ちますが、昭和50年代から思春期の若者の相談が急増  
して、人生にとって思春期が如何に大切で、影響が大きいか  
を痛感しました。外形から考えても、子供の姿と、大人の髪  
の生えた男性、ふくよかな女性の姿では全然違います。長い  
人生の中で一番目をみはるような変化をする時期が思春期  
なのです。からだの外形だけではなく、見えない心も変化し  
ているのです。からだの発育は以前より早熟になってきて  
いますが、目に見えるので指導がしやすいといえます。しかし  
心の問題は見えないだけに掴みきれません。そして急  
激な経済状況の変化や、社会全体の価値観の多様化のために、  
揺れ動く大人の投影が思春期の子供たちに現れているとい  
っても過言ではありません。子供たちこそ被害者なのです。

特に「性」に関しては、タブーであったものが急激に開  
放されたので、大人の戸惑いが子供たちにとっては、おか  
しくもあり不安でもあるのです。大人にとっても情報過多  
のために、余計な心配の種が増えています。お互いに語り  
合って、正しい知識を身につけるためにこのリプロヘルス・  
ネットワークを活用しようではありませんか。

# リプロダクティブ・ヘルス／ライツ・ネットワーク（リプロヘルス・ネットワ 設立記念シンポジウム「女性と健康」開催

リプロヘルス・ネットワークが、昨年11月に発起人総会を開いてから3ヶ月。本格始動の皮切りとして、2月21日午後1時から、仙台市青葉区のエル・パーク仙台で、設立記念シンポジウム「女性と健康」を開催しました。

午前中は雨模様で、参加者の出足が気になりましたが、約100人が来場。お茶の水女子大ジェンダー研究センター教授で、総理府の男女共同参画審議会委員、またNGO「女性と健康ネットワーク」の発起メンバーでもある原ひろ子さんが、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツを実践する意義」と題して基調講演を行いました。続いて、八幡悦子さん（グループMOMO代表）、木須八重子さん（仙台市民局生活文化部女性企画課長）、藤田紀子さん（弁護士）によるパネルディスカッション「地域からの発信—リプロ・イン・仙台」が行われ、女性が自分の体を見つめ、女性としての性=生を充実させていくことの重要さを確認し合いました。

## 原ひろ子さんの基調講演

「リプロダクティブ・ヘルス／ライツを実践する意義」

「健康」という言葉のとらえ方は、人によって実際に幅が広い。WHO（世界保健機構）の定義は「Complete State of well-being」。それを訳して、厚生省は「完全に良好な状態」と定義しています。体育学の分野では、しばしば「完全無欠に」「完璧に」という表現も目にしますが、「完全な（Perfect）」という表現は、曲者です。精神的な状況、身体的な状況は人によって違う。病気や障害を持つ人も、自分自身の状況においてより良い状態を求めていくこと、それが「健康」という言葉の意味なのではないでしょうか。そういう考え方から、私たち女性の運動を進める立場では、「より自分らしく生きられる状態」という定義を広めたいと願っています。WHOにも働き掛けて、多様な「健康」の概念を包括できるような定義を考えていきたいものです。

リプロダクティブ・ヘルス／ライツは、女だけではなく、

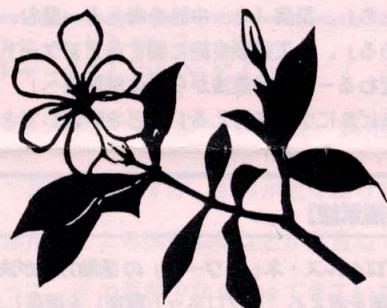


男も主張すべきだと私は考えています。しかし、女性の地位がまだ低いという社会的、文化的状況が、女性の健康やセクシュアリティに深刻な影響を与えていたという現実を見れば、リプロダクティブ・ヘルス／ライツは、やはりとりわけ女性の問題といえるでしょう。栄養状態が悪い中で避妊もせずに次々と子を産まされる、あるいは性暴力という人権侵害。国や地域によって多様な状況にある女性たちが、どう連携し、この問題を訴えていけるかが、大きな課題です。

女性が自分の体のことを自分で決め、自分らしく生きていくことを保障されるためには、さまざまな選択肢が用意されていることが必要です。低用量ピルも、人工妊娠中絶も、

どうしても必要な人が、必要な時に選択できる環境を保障してほしいということなのです。

今、女性基本法をつくろうと国が動き出していますが、女性たちが本当に望む内容の法律にしていくために、一人一人の女性たちが声を上げていきましょう。



## パネリスト発言概要

パネルディスカッションは、地域からの発信と題して、フリーの助産婦として様々な女性支援活動を行っている八幡悦子さん、仙台市の女性企画課長で女性政策を数々手がける木須八重子さん、弁護士で女性問題に詳しい藤田紀子さんの3人をパネリストに活発な意見交換が行われました。

それぞれの方の御意見の抜粋をご紹介致します。

八幡さん「民間の中で支える事の大切さを実感している。私は、診断や、薬を処方する事はできないが、仲間と性の事で学んだりした事を話すと元気になる人がいると知った。専門家にならず、平場で話し合う事が必要だと感じている。子宮筋腫や、子宮内膜症、不妊等の同じ悩みを持つ人々を繋いでいく事や、それぞれのグループのセクシュアリティーの相談、また病院選びの情報等を発信している。また、離婚や暴力の相談も受けているが、各地から様々な問題が寄せられてくる。これらの問題を受け入れ解決に導くために、なお、公的機関、民間の機関が一緒にトレーニングする事が重要になってくると思う。」

木須さん「各自治体は女性行動計画を持っている。仙台市は、この4月からは、第2期の計画を策定する。“基本的人権としての女性の性の尊重と心身の健康支援、性の自己決定の支援”を柱とする。リプロの概念が短時間で定着したのは、北京会議やウィーン人権会議等世界の流れをうけてのことだが、加えて、市民の取り組みがあったからだ。

だからこそ行政が動いたといつていいと思う。行政としては、こうした理念と施策をどう近づけていくか、今後は現場の職員の研修も必要と思う。また、女性に対する暴力被害も今後重要な課題になると思われる。啓発も必要だ。実態の調査も計画している。民間との連携で救済・支援を行いたい。地方分権の時代、女性基本法等、国の法律ができるかをみるだけでなく、地元での政策提言をお願いしたい。」

藤田さん「弁護士活動を通して、女性は差別された存在だというのを実感してきた。少しずつ有利に法律が変わってきたが、これは、差別されている女性が声を上げ、日々訴え続けたからだ。それでもまだ足りない。夫婦別性や、離婚時の財産分与の権利などだ。法律に不備がある点は女性が力を結集しなければならないと思う。また一方で、子供を産んだが嫌になったので母親を辞めるというのはできない事なのに、離婚のとき子供が要らないという争いが増え、女性は、選択する機会が増えたと同時に責任について自覚する事を忘れているのではと感じるケースもある。選択の裏腹にある責任を考えなければならない。民がしっかりとてこそ、官を、国を突き上げる事ができると思う。」

この他、会場からも意見を出して頂き、今後の活動の励みになるネットワークの協力を確認し合いました。

## グループ紹介 グループJ

私たちグループJは、女性の人権と性を基本に、女性のところからだをテーマとした学習に取り組んでいるグループです。

女性問題の根本にありながら、これまで語られてこなかつた性における男と女の関係性に目を向け、女からだを女自身が自分のものとして考えていくことを目的に、いろいろな視点から見つめ、学習していくと思っています。

今までの活動として、ビデオフォーラム「中絶ー北と南の女たち」、講演「今、中絶を考える～産む、産まないは女が決める」、人工妊娠中絶に関するアンケート調査、講演「何が変わる－優生保護法から母体保護法へ」、講演「－避妊－いまピルについて考える」などを学習してきました。この活

動を通して今までなかなか声に出して言えなかったことを、少しずつでもアピールできたのではないかと思っています。

なかでも、中絶に関してのアンケート調査で、たくさんの女性から回答を寄せさせていただいたことは、女性に対する関心の深さのあらわれではないかと思います。

語る機会の少ない重いテーマ“中絶”、このアンケートをきっかけに女性の人権、性と人生についてもっと深く語り合える場を作っていくかなければならないと感じています。

今年度の活動としては、昨年に引き続き、“ピル”について学習して行こうと思います。日々認可予定の経口避妊薬低用量ピル、最近新聞や本などで目にする機会が増えてきていますが、一般的にまだまだ分からことが多い現状です。それを自分たちの言葉で分かりやすく解説した小冊子を作つてみようということになりました。長池先生初め、皆様のご協力を得ながら一年間かけて頑張っていこうと思っています。

### 【リプロ掲示板】

#### ■「リプロヘルス・ネットワーク」の活動方針が決まりました。

1. 性と健康を考える「リプロネット講座」を開催します。  
専門家やグループ会員のメンバーがコーディネーターとなって、性と健康に関する悩みや問題を抱えている人たちと、それぞれのテーマについて話し合うフリートークスタイルの講座を開催します。今後はグループ会員の協力も得て年間スケジュールを立て、それに沿ってだれもが参加しやすい「みんなで語ろう講座」を継続させていきます。
2. 会報を年4回程度発行します。  
リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する様々な知識や情報をはじめとして、リプロヘルス・ネットワークの活動報告、自助グループの活動紹介、関連する催しや書籍の紹介などを行います。
3. 会員募集を継続して行います。  
ひとりでも多くの方々や自助グループに対して、リプロヘルス・ネットワークへの理解を促しています。

#### ■第1回「リプロネット講座」開催

第1回目のテーマは『みんなで語ろう、女と男の更年期』。男性にも更年期はあるということ、女性の更年期の問題はパートナーとしての男性の問題であるということの認識を踏まえ、男性の積極参加も募ります。コメントーターは、リプロヘルス・ネットワーク代表／長池博子、コーディネーターは「レモングラスの会」代表／早坂美恵子さんです。

日時／6月13日(土)13:30～16:00  
場所／リプロヘルス・ネットワーク事務局（レディース健康相談室）  
募集定員／申し込み先着15名 参加料(茶菓代)／500円  
申込み方法／6月1日より電話受付け  
受付の曜日と時間／月・水・金の午後2時から4時まで  
※定員になり次第、締め切りといたします。  
申し込み先／リプロヘルス・ネットワーク事務局 022(227)0052

### 【催し案内】

#### ■フォトドキュメント「臨月」写真展

京都在住のルボライター野寺夕子さんが、出産まざわの妊婦101人のヌードを撮影した写真展。これまでタブーとされてきた妊婦の写真を新たな視点で撮影し、1996年度平凡社主催のフォトコンテストで準太陽賞を受賞。101人の妊婦たちが、それぞれありのままの自分と折り合っている自然の姿が見る人々を引き付けます。

6月12日(金)～14日(日)まで、仙台141ビル6Fのエル・パーク仙台スタジオホールで開催されます。チケットは前売券500円、当日券700円。市内プレイヤガイドなどで扱っています。

主催：「臨月」写真展実行委員会

後援：仙台市市民文化事業団

問合せ先：宗片恵美子（グループJ）FAX 022(234)3066

### 事務局から

入会の申し込み、会費の納入はお済みでしょうか。

【申し込みが済んでいない方へ】

ご入会の申し込みをお待ちしております。

【会費未納の方へ】

できるだけお早めに納入をお願いいたします。

社団法人日本家族計画協会発行の「性の権利、生殖の権利とは何か」を送料実費にてお譲りいたします。ご希望の方は事務局までお申し込みください。

◎長池博子リプロヘルス・ネットワーク代表が、

第2回「松本賞」を受賞しました。

「松本賞」は、日本におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、中でも家族計画・避妊の専門的な分野において活躍している第一人者を表彰するもので、これまでの活動が「女性の健康維持や権利の向上に功績があった」と評価され、今回の受賞となりました。

### 【編集後記】

「ライフワークだから手伝って」と長池先生に声をかけて頂いて1年。長い間仕事でかかわってきた人たちとさえ、女性として、体のことを語る機会が無かったことに気づいた。私自身「子宮をとりたくない」と密かに抵抗しつつ仕事を続けていたのだが、「さっぱりするわよ」との先生の一言は何とも力強かった。リプロの目的は、心も体も健康に。これこそ、美人の必要条件ではないか。さあ、もっともっと美人になろう。